

## 取組実績の概要（2 ページ以内）

工学院大学では平成 25（2013）年から、本学が独自に開発した「ハイブリッド留学」プログラムを開始した。最大の特徴は、まず語学の習得からというこれまでの留学スタイルから脱却し、「まず海を渡る」ことを最優先させ、海外で暮らしながら国際感覚や英語力を養成することを最大の目的とした点である。必要最低限の科目は本学担当教員が渡航し現地で実施することで、専門科目等の現地開講科目履修の際の「言葉の壁」を取り払うと共に、費用面でも二重に授業料を払う必要がなくなるなど、海外留学のハードルを低くした。参加した学生たちは渡航経験を糧に、帰国後の学修活動にも積極的な姿勢で取り組み、その成果は当初の予想を超えるものであった。

平成 27 年度からの本事業においては、長期学外学修プログラムとしてのハイブリッド留学のさらなる改善に努め、留学参加を希望する学生が自らの学力および社会人基礎力を踏まえて最も適切な時期に海外に行き、そこで主体的な共同学修経験を積むことでより大きな飛躍へとつながられるよう、全学的な体制整備を進めた。ハイブリッド留学の参加学生数は以下の通りである。

年度	先進工学部	工学部	情報学部	建築学部	春期特別	年間学生総数	学生累計	在学中参加学生積算	参加学生割合/全体	学生全体数
平成 25	—	—	—	21	—	21	21	21	0.35%	5,961
平成 26	—	32	8	35	—	75	96	101	1.68%	5,984
平成 27	—	21	15	25	20	81	177	161	2.67%	6,035
平成 28	14	27	—	32	13	86	263	207	3.45%	5,987
平成 29	31	26	9	19	20	105	368	287	4.91%	5,842
平成 30	21	23	19	29	30	122	490	324	5.65%	5,725
令和元	23	39	19	40	7	128	618	363	6.39%	5,676

本事業は、補助開始当初は 1.68% の学生参加率であり、全学的な実施に至っていない状況であったが、本補助の助成によって各年度計画通りに実施され、改善と体系化が進められた結果、補助期間の最終年度にして、過去最多の参加者数となった。参加学生/全学生数という測定方法だと目標としていた 10% には届いていないが、令和元年度の卒業生のうち、長期学外学修プログラムに参加した学生の占める割合は、8.58%（109 人/1271 人）となっている。令和 2 年度卒業生では 9.6 程度となる見込みである。各学部で教育的効果および社会人基礎力を踏まえて最も適切な時期を模索した結果、体験活動期間を上級の学年とした学部においては、在学中の参加者数の累積がどうしても少なくなるためである。

本事業は、この補助期間に教育内容や体制面など様々な試行錯誤を行ったことで、実施意義が全学的に浸透し認められるようになった。補助期間終了後にも円滑な運営を継続するために、平成 30 年度よりハイブリッド留学運営委員会を発足させ、「ハイブリッド留学規程」「ハイブリッド留学運営委員会規程」を策定するなど、基盤整備を進めた。現在は前年度までの事業実施結果を踏まえ、事業推進担当者が事業計画の策定やプログラムに対する修正を立案し、事業責任者が委員長を務める「ハイブリッド留学運営委員会」にて定期的に審議される体制を構築されている。

外部からの評価も高く、建築学部ハイブリッド留学は平成 28 年度に第 11 回関東工学教育協会賞（業績賞）と第 21 回工学教育賞とを受賞している。

その結果、中期計画「コンパス 2023」に組み込まれ、本学のグローバル戦略施策の中心を担う事業へと成長した。カリキュラム面からも、広報面からも、本学になくてはならない「独自の取組・特色」として根付いており、補助期間終了後であってもプログラム維持が学内各方面から期待されている。それゆえ資金面でも、補助期間終了後も自己資金で実施継続できるだけの予算が確保されている。

さらに、令和元年度新設の先進工学部機械理工学科航空理工学専攻の「高度な工学知識を兼ね備えた“エンジニア・パイロット”」の養成を目的とした斬新なプログラムの策定にも波及、ハイブリッド留学期間を活用して学生が国内外の空で操縦訓練を行い、国際標準の操縦ライセンスを取得できることとなった。令和 3 年度からは「ディプロマット留学」という、大学院生を対象とし、米国協定校において、学部授業科目を履修する新しいスタイルのプログラムを展開していくこととなった。こうした試みは本事業での効果検証なしには実現できなかったものである。

一方、ハイブリッド留学ではホストファミリーの数などから希望者全員を参加させることができないため、これまでも協定校から同様に日本に留学する学生のサポートする Campus Attendant Program 制度を

行うことで、多様な学生にグローバルな体験の機会を提供してきたが、令和2年度から学長事業推進本部の許に国際室が開設され、今後留学生の受け入れを積極的に進めつつキャンパスのグローバル化を促進していく道筋が立った。海協定校からの受入プログラムなどへの学生の積極的な参加を促し、留学生の受け入れも積極的に始めていくこととなった。英語と中国語の語学研修も従来のやり方からハイブリッド留学の方法を一部取り入れた長期学外研修型プログラムへと変更、令和2年度にはハイブリッド留学を含むこれら海外プログラムを網羅したパンフレットを作成し、積極的な参加を呼びかけ、より多くの学生が海を渡る経験をするための準備を整えた。

また、平成28年度より企画力実践力向上のための ISDC プログラムを始動した。「ISDC プログラム (Industry-Student Direct Collaboration Program)」とは、参画企業から複数の課題が学内公募で提示され、学生が卒業(修士)論文のテーマとして取り組みを目指し、研究計画書を作成しプログラムに応募する。その後、企業と大学で研究計画書をもとに協議し、コラボ学生を決定する。コラボ学生は、企業からのコラボ支援金を有効活用しながら、その成果を卒業(修士)論文としてまとめ、最終発表会でプレゼンテーションを行い講評を受けるプログラムであるが、ハイブリッド留学参加者からも多く応募があり、プレゼンテーションが認められ、採択されている。そのことが一般の学生にも刺激となっている。本事業の波及効果の大きさを改めて実感している。

もとより単に新しいことをやることだけが改革なのではない。重要なのは、高校までの学習を通して学生たちが身につけてきた「生きる力」を、大学での4年間の学修と経験を通して、様々な困難にぶつかってもくじけることのない「生きぬく力」へと高めることである。グローバル化が進み先の見通しにくい現代社会において、必要となる経験とは何なのか。ハイブリッド留学はそれを端的に指し示すことのできるプログラムであり、何より学生たちの意識改革へとつなげられたといえる。

#### 【必須指標の達成度】

	平成27年度 (起点)	令和元年度	
		目標	実績
長期学外学修プログラム(ハイブリッド留学)に参加する学生の割合 【%(参加学生/全学生数)】	2.67%	10.0%	6.39%
長期学外学修プログラムを経た学生の成績評価 【GPA平均】	-	3.00	3.12
退学率 【%(退学者(除籍者を含む)/在籍者数)】	3.76%	3.00%	3.40%
学生の授業外学修時間 【時間数(1週間あたり(時間))】	約21時間	30.0時間	20.5時間
進路決定の割合 【%(就職決定者数+進学者数)/卒業生数】	94.7%	96.0%	96.3%
学生が企画する活動数 【件(活動数)】	2件	10件	4件